

静岡

日本遺産とは、点在する有形・無形の文化財をストーリーとして国内外に発信することによって地域の活性化を図ることを目的とする制度で、平成27年に始まりました。文化財の「活用」と地域活性化を前面に打ち出している点が、文化財（文化遺産）の価値付けを行い、「保護」することを主な目的とする世界遺産とは大きく異なります。

文化庁は2020年に東京で開催予定のオリンピック・パラリンピックに向けて増加が予想される外国人旅行者が日本全国を周遊して、地域の活性化に結び付くように、観光客の受け皿となる日本遺産を日本各地にバランス良く存在するように認定を進めています。またその一方で、ブランド力や稀少性を保つために全国で100件程度の認定に留める方針とされています。

こうした日本遺産の認定を受けるためには、文化資源を活かしつつ地域の魅力を語る「ストーリー」があることと、地域づくりについての将来像と実現に向けた具体的な活性化計画を示すこと、更には地域活性化

の推進が可能となる体制が整備されていることが求められます。三島市では平成27年度から情報収集を始め、平成28年度には小田原市、箱根町と箱根八里街道観光推進協議会を立ち上げて「箱根八里」の活用を進める体制づくりを行いました。平成29年度には函南町も含む静岡・神奈川の県境を越えた二市二町で協力して、文化庁へ日本遺産の認定申請を行いました。

そして、平成30年5月24日に「旅人たちの足跡残る悠久の石畳道 一箱根八里で辿る遥かな江戸の旅路」のストーリーで、「箱根八里」は日本遺産の認定を受けました。今回認定の13件を含めて、日本遺産は全国で67件となり、「箱根八里」は静岡県で初の認定となりました。

「箱根八里」の魅力は、小田原から三島に至る旧東海道沿いに江戸時代そのままの街道の有り様が残っていることと、同じ道中にありながらも深山幽谷の趣がある東坂と、富士を望む眺望が広がる西坂とで大きく風景が変わるところにあります。ひととき往時の旅人になって苔むした石畳を辿れば、宿場や茶屋、関所や並木、一里塚などが次々と目の前に現れてきて、江戸時代そのままの『「箱根八里」旅』へと誘います。

このような魅力あふれる「箱根八里」を国内外にアピールして地域を活性化するために、箱根八里街道観光推進協議会では市町の枠にとらわれない活動を始めました。調査・啓発・調整についてはインバウンドを対象にしたマーケティング調査や箱根八里街道博覧会の開催などを行います。さらにフェイスブックやSNSを使っでの情報発信に努め、「箱根八里」の説明板や誘導標識整備、案内ガイドの育成を行うことによって基盤整備を進めます。今後様々な場面で「日本遺産」や「箱根八里」のロゴマークを見かけるが増えると思いますが、まずは自分の足で実際に歩いて「箱根八里」を体感してみたいかがでしょう。

「箱根八里」が日本遺産に認定



箱根旧街道入り口

日本遺産ポータルサイト「箱根八里」

<https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story062/index.html>